



目黒川の桜・大岡川の桜



目黒川の桜

毎年、桜のシーズンになると開花予想日がテレビのニュースを賑わすが、最近は東京の桜の名所に目黒川が登場するだけでなく、トップで紹介されたりするようになった。

千鳥ヶ淵や上野公園などの桜は、相変わらず東京の桜を代表する名所で、目黒川の桜がどうしてそんなに話題になるのかと最初はびっくりもしたが、最近では川面に伸びる枝も大きくなっていて、目黒通りの目黒新橋の上から見通す上流と下流の満

開の桜は、なかなか見ごたえのある風景になっている。

目黒川からほんの10分もかからないところに住んでいる住民としては少々嬉しいような気がしないでもない。

我が家から目黒駅まで行くのにバス停で三つ目だが、最近では運動不足を補うために歩くことが多い。

目黒通りの元競馬場前から金毘羅坂を下り、大鳥神社の交差点を過ぎ、目黒川をまたぐ目黒新橋を渡って、権の助坂を上りきったところに目黒駅はある。したがって目黒川は途中で必ず見る風景で、兩岸の桜並木は四季の移り変わりを感じさせてくれる貴重な存在になっている。



ライトアップされた桜並木

満開の頃になると、目黒新橋付近は桜見物の人々でごった返す。夜もライトアップや提灯で飾り付けをして、そぞろ歩きで夜桜を楽しむ人々で賑わっている。

最近は外国の人も多いし。観光バスでやって来て、目黒通りに数台が停車して交通渋滞になることがある。

今年は開花が一週間ぐらい早く、桜祭りや観光バスで予定通りの日に訪れた人には、少々気の毒な花見だったようだ。



クルーズ船の花見



テレビ中継船



中目黒駅より上流の目黒川



桜祭りの人出



ブルーライトイルミネーション

また桜見物のクルージングというのも出現していて、船からのテレビ中継をやったりしている。水深の関係からか目黒新橋辺りまでは上ってこないようだが、コンクリートの垂直護岸に囲まれ、川底から見上げる花見はどんな感じなのかと想像してみるが、積極的に乗りたいとは思わない。

目黒区のホームページなどによると、目黒川は東京都が管理する二級河川で、流域内の関係する自治体は港区、品川区、目黒区、世田谷区、杉並区、三鷹市の5区1市にわたっている。総延長は約30kmで、烏山川、北沢川、蛇崩川が合流し、北沢川が合流するところから約8kmが目黒川となる。

そして目黒区内の日常的維持管理は、目黒区が行っている。両岸の桜並木は、池尻大橋から目黒新橋を過ぎ、品川区に入ったところにある亀の甲橋までの約3.8kmに、約800本のソメイヨシノが植えられているとのことである。

さらに下流の品川区に入ると川幅も広くなり、約3kmに550本の桜が植えられているそうだ。

かつて目黒川沿いには農業や工業用の水車が多く立地していたが、動力源が電力に代わるとともに数が減り、1923（大正12）年から目黒川の改修工事が始まって姿を消していき、代わりに桜の植樹が始まった。

1927（昭和2）年に植樹が開始され、1987（昭和62）年に3代目が植樹されている。

蛇崩川と合流する中目黒駅付近からの上流は、川幅が狭くなり、両岸の桜の枝が触れ合うぐらいになる。川沿いの道は幅が狭く車の通行も少ない。洒落た店もある散歩道になっている。

周辺の山手通りを中心に商店街があり、桜祭りの時はあふれんばかりの人出で賑わう。

最近では、クリスマスの頃になると桜の木をイルミネーションで飾って賑わいをみせる。

中目黒駅を中心にした目黒のイベントと、自分はまだ行ったことはないが大崎駅を中心にした品川のイベントがあって、年々工夫を凝らした演出を競っているようだ。

2014年には、中目黒の方ではブルーライトで演出をしたところ、あまりの混雑が原因で、翌年のイルミネーションが中止になってしまった。

2年後にオレンジゴールド色にして再開されたが、ごく普通

のイルミネーションに戻った感じがする。

自分は小学校5年の1950(昭和25)年より、通学通勤で目黒駅まで歩いて出ていた。正確に覚えていないが、小学校か中学校の頃までは権の助坂の桜が見事だった。桜吹雪を浴びながら、坂道を上り下りして通学した記憶があるが、目黒川の桜の方は知らなかった。

目黒川の桜というのを意識したのは、3代目が植樹される直前の頃だと思うが、横浜市の都市デザイン室長をしていた時に、目黒区の都市計画課長と職員の方々がやってきた。

「目黒川沿いの桜並木と歩道を整備することになり、ついでには横浜の大岡川プロムナードを参考にしたい」ということで、現地を案内したことがある。

課長は通勤のため京浜急行を利用しており、毎日車窓から大岡プロムナードを見ているそうで、「自分は目黒から横浜に通っているのだから、立場を逆にした方が良さそうですね」と冗談を交わしたりした。

その頃はまだ、少なくとも目黒新橋辺りには、桜はあまりなかったのではないかと思います。それから川沿いをすべて、桜並木のプロムナードにするのです」とのことで、東京も思い切ったことをやるなど感心したことを覚えている。



横浜・大岡川プロムナード

大岡川プロムナードは、横浜のアーバンデザインの取り組みを、都心部の関内地区から周辺の区に拡大をしようとして「区の魅力づくり」と銘打った取り組みを始めて、最初に実現した事業である。

大岡川は横浜市南区の中心を流れる干潮河川で、地域の中心として魅力を高めようと、桜並木を補植し、川側に歩道や手摺を整備した。

1980年にスタートして約10年をかけて完了した事業で、整備後には住民の方々が愛護会をつくり、清掃などの管理をしている。

この事業がきっかけになって、横浜市では様々なプロムナードが雨後の筍のように出現した。

つい最近、NHKの「小さな旅」という番組で大岡川が取り上げられ、地元の人たちの桜の再生への努力が紹介され、嬉しく思った。



桜のトンネル

当初、それほど目立たなかった目黒川沿いの桜並木は、徐々に大きくなって存在感を増し、今日の姿になっている。

目黒新橋の少し上流には、目黒区民センターや図書館、美術館や区民ギャラリー、そして田道ふれあい館や田道広場公園といった区民利用施設が立地していて、屋外プールの周辺には古木も多く、見事な桜のトンネルになっている。

家内はこれらの施設をよく利用していて、愛犬の「モス」がいた頃は散歩コースにもなっていた。そして「ボラの大群が泳いでいた」「コサギがいた」「カルガモが泳いでいた」などと、その都度、楽しそうに報告をしてくれる。

しかし、目黒川というと水が汚いという印象が非常に強いらしく、「桜はきれいだけれど、水を何とかしなくては」といつも言う。

特にこの区民利用施設付近の上流から下流にかけては、川の水が汚れていたり、悪臭がする時が多いようだ。

何故だろうと思っていたが、区のホームページなどでその理由が分かった。

それによると、東京都は、雨の時に増水した下水道管から汚水を目黒川に放流するが、合流式のため、川底にヘドロが堆積してしまう。

流れる水の量を確保し水質改善を図るため、下水道の高度処理水を目黒川に流してはいるが、目黒新橋より上流側の中目黒公園から下流側の太鼓橋付近までは、潮の満ち引きにより川の流れが悪く、ヘドロが溜まり易い。

水温が上がるとヘドロの有機物が腐敗の原因になって、悪臭や白濁の現象が起きるのだそうだ。



白濁した川の清掃

目黒区は世田谷区、品川区とともに、東京都に改善要望を出しており、汚水を一時的に貯める貯留管を設置されたところもあるが、追いついていない。

区としては区民にも声をかけ、目黒川クリーンアップ作戦を行って、川の中の清掃と桜並木の清掃を行っているが、さらに「川底の浚渫や、川底を平らにする工事などを行っていき、また東京都に対しても、下水道施設の改善をはじめ、大規模な川底の浚渫、維持用水の確保など、目黒川の環境改善に向け、引

き続き要望をしていきます」とある。

東京都と特別区の権限の関係があって苦勞をしている様子が伺えるが、区民としては汚い水と悪臭を心配しながら、区民利用施設や花見に行かなくてはならない日々が、まだまだ続きそうである。

今年の異常気象は記録的なひどさだが、先日的大雨では、世田谷区に時間当たり 130 ミリの雨が降った。東京都によると下流の目黒川は、目黒区青葉台の観測所で、氾濫の危険性が非常に高まり、自治体が避難勧告などを発表する必要とされる「氾濫危険水位」に達したと伝えられた。

1994（平成 6）年には、山手通りと駒沢通りの交差点近くの通称「船入場」に東京都が洪水調整池を地下に設けるとともに、その上部に目黒区が広場を設ける事業を行っている。

それまでは、大雨が降ると中目黒駅一帯が水につかる映像が流されていたが、最近はその風景も見なくて済むようになったと思っていたが、先日のこの大雨では、中目黒駅付近での浸水と、橋をのり越えそうな濁流の映像が報道されていた。

注目されていなかった目黒川が、桜並木のプロムナード整備によって、市民生活にとっての魅力資源として大きく育ってきた。

都市河川の課題を解決しながら、さらに魅力ある都市空間に育ってほしい。（2018 年 9 月 記）